

CCN NEWSFLASH

メキシコ、連邦工業所有権保護法を新たに制定

課題番号150 2020年11月～12月 | 2020年12月1日

メキシコの新しい連邦工業所有権保護法(スペイン語の頭文字をとって「LFPPI」)は、2020年7月1日に連邦官報に掲載され、2020年11月5日に発効されました。LFPPIは、その前身である工業所有権法(スペイン語での頭文字をとって「LPI」)を廃止し、LPIと比較して多くの変更点が含まれています。

以下は、LFPPIで規定された最も重要な変更点です。

メキシコ工業所有権庁(スペイン語の頭文字で「IMPI」)には、罰金を科す権限、行政手続における侵害に対して科す罰金の額を決定する権限、及び支払い及びその他の対応する金額を徴収する権限が付与されています。同様に、メキシコ連邦税法の行政執行手続に基づき、支払期限を過ぎた金額を回収する権限もIMPIに付与されています。

IMPIは、侵害の宣言に関する行政手続において、影響を受ける工業所有権者が被る損害の支払を命ずる権限と、その損害額を設定する権限を付与されています。

LFPPIは、実用新案権の存続期間を10年から15年に延長しています。

特許登録出願の処理中にIMPIに直接起因する不合理な遅延が発生した場合、特許の期間を延長する可能性を認めるものである。このような遅延は、出願の日から特許が付与される日までの処理期間が5年以上と定義されています。

産業財産権に関するライセンス契約を第三者に対して有効にするための登録義務を撤廃するものです。

商標、スローガン、商号の有効期限は従来通り10年ですが、LFPPIでは、出願日ではなく承認日から有効期限が始まります。

新法では、商標の一部取り消しや失効を取得できる可能性があります。

今後数日、数週間うちに、CCNはこの重要な新法に関するさらなる詳細な分析記事を掲載する予定です。

コンタクト:

アントニオ・カンペロ

パートナー

acampero@ccn-law.com.mx